

## ■ 第2回土木系学生会全国大会報告

第2回全国土木系学生会は、予定どおり8月29日午前8時30分より開催した。参加者129名は3泊4日を、講演会、座談会、討論会、映写会、見学会と意義ある発言、および行動をとりにした。国立阿蘇青年の家という大自然に宿したことは、本大会の特色であって能率的であった。プログラム変更等準備不十分な点等もあったが、参加者の努力および関係者各位の厚いご理解とご支援により本大会が大成功に無事終了した。ここに深くお礼申し上げる。

なお本大会において、参加者一同で「日本土木系学生会結成に努力する」という宣言文を読み上げたが、その件については、次号で紹介する予定である。また、本大会の詳細な報告は、全国の土木学生に機関誌として配布する予定である。

### (1) 講演会 (8月29日)

午前8時30分より開会式、そのあと講演会が行なわれた。九州大学工学部内田一郎教授が「土木技術者としての社会的責任」と題して、幅広い教養を身につけるようにという内容で講演して下さい。つぎに、現参議院議員の米田正文氏が「九州の土木開発について」という題で、主として建設省の仕事・役割について講演して下さい。ただ、九州大学経済学部の都留大治郎教授が都合によりご出席いただけなかったのは残念であったが、面白く、かつ、有意義な講演であった。

### (2) 座談会 I (8月29日)

座談会Iは、先にご出席下さったお二人と、他に3名の講師をお願いして、25名内外のグループを5班に分けて催した。テーマは各講師に一任した。内田氏と米田氏は講演会のテーマをそのまま持たれ、熊本大学吉村虎造教授は「天草架橋とその問題点」、九州工業大学渡辺明助教授は「鉄筋コンクリートの最近の話題と歩み」を、九州電力永島英起氏は「大岳地熱発電について」をテーマにお話し願った。時間の都合で一部にわかりにくい点もあったようだが、最近、土木技術界で話題の九州開発に関するテーマを含んでいたのも、いっそうの興味を覚えた。以下、各担当責任者からの内容等について記する。

#### a) A班・渡辺 明氏

18名のグループは渡辺氏を囲んで、スライドを見ながら、「鉄筋コンクリートの最近の話題と歩み」を中心にお

話していただいた。初心者のおわれわれにとっては、わかりやすく、印象深いものであった。特に“Limit Design”という新しい設計法や、「不静定構造物に対するフレキシブル」という処置等に関する問題については、引続きお話ししていただいた。

#### b) B班・吉村虎造氏

まず、話はルート選定から始まり、天草の海底の地形、地質の概況を述べられ、1号橋から順に5号橋まで橋の形式の比較、選定、ならびに選定した橋の工法、海中基礎工法、方式の説明、外国橋を比較しながら、お話ししていただいた。その後、先生ご持参のスライドを見て閉会した。座談会のところが、話の内容と人数の関係で講義形式になってしまったが、有意義な会であった。

#### c) C班・永島英起氏

氏は、大岳地熱発電を説明下さった。この地熱発電は、最近の工業の発展にもなるエネルギー源不足の折から、近年急激にクローズアップされてきたし、反面おわれわれにとって未知の分野であるから、期待をもって氏のお話しを伺った。氏は大岳地熱発電の状況を8mm映画で写し、われわれに説明して下さい。日本のような火山国で将来さかんになるであろうこの地熱開発を、本大会で見聞したことは大なるものがある。

### (2) 座談会 II

座談会IIは、座談会Iで講師と話しあったテーマを、学生のみで話合うものである。しかし班によっては、テーマ変更も少々あった。

#### a) A班

活発な討論が行なわれた。短時間の先生の話の中でも鉄筋コンクリートの今後の動向というものに少しでもふれることができ、有意義であった。A班の討論の結果としては、「われわれは単なる土木技術屋としてではなく、もっと広い意味の“技術家”として、他国の真似事ではなく、日本独自のものを開発してゆくために、各人がユニークな考え方を持ち得るように、物を見る目を養うことを今から心がける」と結んだ。

#### b) B班

最初の予定を変更して、各大学の活動状況、実習等について話合った。各大学研究班を作って、活動しているところもあり、また、本大会に参加して初めて土木系学生会の存在を知った人もあった。しかし大いに刺激にな

ったようだ。実習では、おおいに実習を行なって、積極的に現場の空気を吸い、実地で仕事ができるという点で価値があるという意見が強かった。

#### e) C 班

地熱発電に関して、「民間だけに開発を任せてはいけない。もっと大きな国家的事業として開発を進めるべきである」という意見が出された。結論として「われわれには使命感がある。われわれは日本の国土開発を忘れるな！」と結んだ。

### (4) 討論会 I (8月29日)

各大学出席者の有志 40 名が集まり、つぎに記す議題について話合った。予定時間 2 時間であったが、3 時間半を越すという真剣な話し合いだった。年 1 回土木系学生会が会することは、より以上に同胞意識を与えた。以下、議題と内容である。

#### a) 各校活動報告

組織を持つ関東・関西・九州が活発であった。しかし一部の大学では、学内として充実した活動も見られた。活動内容は主に、講演会、映写会、見学会であった。

#### b) 学生会の今後

現在の活動が余りにも有志のみに止まっているので、浸透を深めることが第一とされた。手段として、機会あるごとに、会報告書を発行すること等。また、学術的発表も必要であろう。

#### c) 全国的組織について

正式な全国土木系学生会結成は、まだ無理であろう。しかし、学生会が社会的地位を確保するためにはぜひ必要とされ、現組織を持つ 3 地区がこの結成に努力すべきだ。全国組織をもつためには、まず未結成地区が一刻でも早く結成すべきとされた。なお、全国土木系学生会結成への誓文作成のため小委員会を設けた。

#### d) 学会との関係について

現状のまま進み、将来は一体となる必要がある。土木学会学生会員への入会を増やすことからつながりを持つべきだろう。

#### e) 次回全国大会開催地について

関西地区より立候補があり、満場一致で認めた。次回がおおいに期待される。

### (5) 見学会 (8月30日)

全部で 3 コースであった。人数の都合上、希望のコースに行けぬ人もいたが、天草パールライン、やまなみハイウェイ、下釜・松原ダム、いずれのコースも大型バスに 30~40 名というゆったりした見学会だった。

#### a) 天草五橋見学

8 時 30 分阿蘇青年の家を出発、さわやかな空気を吸っ

て一路三角港へと向かった。三角から観光船を借り切って話題の天草五橋を下から見学した。すべて素晴らしいもので、われわれ一同ともに満足感を味わった。最初の計画は船で五橋を見ると同時に実際に橋を渡り、直接渡ってさわって見ようという考えだったが、渡橋の計画は公団の都合であったが、周囲の風景と橋との見事な調和は船に乗っている者のみが味わえるものだった。銀一色、連続トラスの 1 号橋、金色もまぶしいランガートラスの 2 号橋、ラーメン形式の 3、4 号橋、パイプアーチの 5 号橋、これらすべてが地元市民の利益と幸福に役立つことを思うと、土木技師としての使命感、責任感というものを改めて感じさせられ、同時に天草のいっそうの発展を祈らずにはいられなかった。

#### b) やまなみハイウェイ・大岳地熱発電

8 時 30 分出発、大型バスに 30 数名、全くゆったりしたものである。バスは阿蘇の大平原をつき貫き、1000 m を越えるハイウェイ。車中に入る空気はさすがに冷たい。まず車は長者原へ、そこから大岳の地熱発電所へ、目標は 10000 kW だ。ここで昼食をとり、また逆もどりして長者原へ。ここで道路公団の方に、やまなみハイウェイについて 20~30 分説明して頂き、時間の余裕をみて、九州電力の人造湖山下の池へ……。この見学会で幹事の不行き届きのため、進行がうまくゆかなかったことをお詫びしたい。

#### c) 下釜・松原ダム (略)

### (6) 映画会 (8月30日)

大会 3 日目の夜、われわれ九州地区土木系学生会がお世話になっている鹿島建設の方々会場までご足労願ひ、映写会を開いた。見学会の疲れも忘れ、討論会参加の 30 余名を除いて、全員が約 2 時間半の映画を見た。内容は学術的なもの、工事現場の記録を組み合わせた計 5 本で、ダム工事現場の大ハッパ、シールド工法、ベトナムのエネギー等、われわれ土木工学を学ぶ者にとって大いに役立つものであった。

### (7) 討論会 II (8月31日)

参加者全員に討論会 I の決議事項を報告、承認を得た。参加地区の代表者が「今回の大会参加には大なる意義と刺激を覚えた」ことを報告し、未結成地区からは次回大会までにぜひ結成したいとの意向が述べられた。そして大会参加者一同が全国土木系学生会結成に努力するという誓文を読み上げ、大会は最高調に達した。この雰囲気こそ、同胞意識を大きくもたらしたものであり、次回の関西地区の万国博にもなる興味のある大会が一層期待される。なお第 2 回全国土木系学生会参加者一同が読みあげた宣言文は、つぎの機会にとりあげ報告する。